

令和 7（2025）年度実績と 主な取組について

令和 8 年 7 月 2 9 日 平塚市病院運営審議会
平塚市民病院



令和 7 年度の取組

令和7年度の取組 はじめに

令和7年度は病院の最重点目標として

「新入院患者数」(令和7年度目標値10,800人)

を達成するために取り組みました。

※「新入院患者数」の令和7年度目標は、令和6年度実績等を踏まえ、経営強化プランよりも高い目標を掲げ取り組みました。

令和7年度に取り組んだ内容①

①地域医療連携の強化

- メールマガジンの配信開始（4月）
- web予約システムの導入（11月）
- 地域医療パートナーシップ協定（ひらQネット）締結（1月）

②高度急性期医療の充実

- hinotori手術の拡大と症例見学受入開始
- 土曜日リハビリテーションの開始（10月）
- IVR-CTの更新（12月）

令和7年度に取り組んだ内容②

③がん医療の充実

- 緩和ケア病棟を開設（2月）

④子ども向け体験イベントの開催

- 【小学生向け】「キッズ病院お仕事体験」の開催（2回目）（8月）
- 【中学生向け】「中学生メディカルフェスタ」の開催（初開催）（3回）

⑤重点プロジェクトの実施

①地域医療連携の強化

メールマガジンの配信開始

令和7年4月～

●希望する登録医療機関に対して、
当院の最新情報をメールで配信

令和7年度実績

●年間12回配信(月1回程度)

●登録数は112件
(2026年3月31日時点)

タイトル:【平塚市民病院】登録医療機関のみなさまへ(2025年10月29日)

日頃から大変お世話になっております。

登録医療機関の皆様へ平塚市民病院の最新情報をお知らせします。

●土曜日リハビリテーションを開始しました。

当院では、令和7年10月4日(土)から毎週土曜日に入院患者さんを対象としたリハビリテーションを開始しました。

発症後可能な限り早期にリハビリテーションを開始することができるようになり、早期回復や廃用症候群の防止・軽減につながると考えています。

●紹介受診のWeb予約システムの導入準備を進めています。

当院では、Webで紹介受診予約できるWeb予約システム「やくばと」の導入準備を進めています。

これにより紹介患者さんや紹介元医療機関の利便性向上を図りたいと考えています。

詳細が決定次第、ご案内させていただきますのでよろしくお願いします。

今後も役立つ情報を提供できるよう心掛けてまいりますので、よろしくお願いします。

問い合わせ先

平塚市民病院 医事課 地域連携担当

0463-XX-XXXX(地域連携直通)

※本メールは送信専用メールアドレスから配信されています。このメールに返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

①地域医療連携の強化

web予約システム「やくばと」の導入

令和7年11月13日～

●webから紹介患者さんや医療機関が受診希望日を申し込めるシステム

【紹介患者さんの予約方法】

●電話

●FAX

+

●web(患者さん、医療機関)

令和7年度利用実績

【導入～令和8年3月】

●累計利用件数：278件

●利用医療機関数：124件

①地域医療連携の強化

地域医療パートナーシップ協定(ひらQネット)締結

令和8年1月1日

●14病院と協定を締結

⇒急性期から回復期・療養期
まで切れ目のない医療提供
体制を構築

⇒病状が安定した患者さんは
当院からパートナー病院へ

⇒急性期医療が必要な場合は
パートナー病院から当院へ



1	神奈川病院	秦野市落合	8	秦野赤十字病院	秦野市立野台
2	済生会湘南平塚病院	平塚市宮松町	9	平塚十全病院	平塚市出縄
3	寒川病院	寒川町宮山	10	平塚病院	平塚市出縄
4	湘南大磯病院	大磯町月京	11	富士見台病院	平塚市土屋
5	高根台病院	平塚市高村	12	ふれあい平塚ホスピタル	平塚市袖ヶ浜
6	鶴巻温泉病院	秦野市鶴巻北	13	みくるべ病院	秦野市三廻部
7	長岡病院	茅ヶ崎市赤羽根	14	八木病院	秦野市本町

②高度急性期医療の充実

hinotori手術の拡大と症例見学受入開始①

令和7年 8月：膀胱全摘除術の初例施行

適用術式の拡大

初例 (R4. 10) から令和7年度までに
合計 380件 実施



診療科	術式	R4~6年度	R7年度
泌尿器科	前立腺全摘除術	74件	33件
	仙骨脛固定術	83件	51件
	腎摘除術	5件	3件
	腎尿管全摘除術	4件	2件
	腎部分切除術	5件	12件
	膀胱全摘除術	0件	7件

診療科	術式	R4~6年度	R7年度
消化器外科	直腸切除術	25件	17件
	肝切除術	10件	15件
	脾切除術	4件	3件
	結腸切除術	3件	18件
	その他	4件	2件

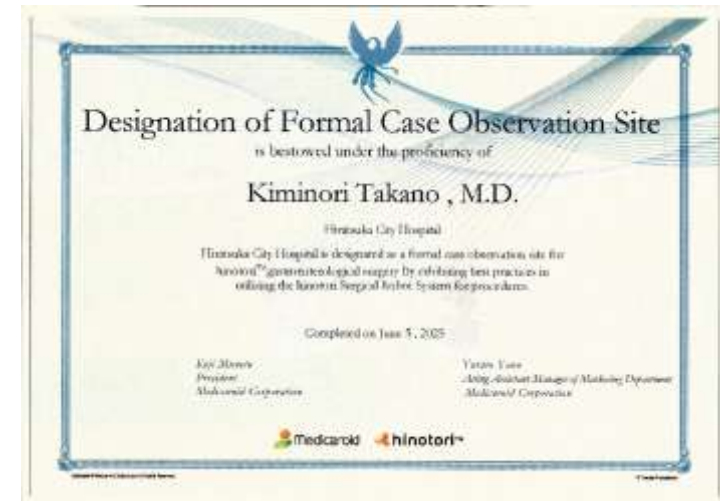
②高度急性期医療の充実

hinotori手術の拡大と症例見学受入開始②

- 症例見学施設とは、指導者として学会から認定された医師が所属し、安全に手術を遂行できる技量及び設備を有する施設が認定されます。今後、新たに手術を実施する医療機関の症例見学を受け入れます。

【当院が症例見学施設とされている術式】

- 仙骨脛固定術（令和6年3月4日～）
- 前立腺全摘除術（令和7年2月26日～）
- 肝切除術（令和7年6月5日～）



令和7年度症例見学受入実績：14件24人

（北海道～沖縄の病院まで日本各地から見学を受け入れました。）

低侵襲手術の普及に貢献しています。

土曜日リハビリテーションの開始

令和7年10月4日～

●毎週土曜日に入院患者さんを対象にリハビリテーションを開始

- ・発症後、可能な限り早期にリハビリを開始

⇒早期回復や廃用症候群の防止、軽減

②高度急性期医療の充実 IVR-CTの更新

令和7年12月

● I V R - C Tを更新

- ・皮膚の被ばく線量低減
⇒患者さんの安全性向上
- ・機器の動作速度向上による
撮影時間短縮
⇒患者さんの身体負担軽減
- ・細かい血管が見えるようになった
⇒質の高い血管内治療



③がん医療の充実 緩和ケア病棟の開設

令和8年2月1日

- 緩和ケア病棟22床を開設
⇒当院でのがん治療の選択肢が増加

【設備】

- 多床室：12床
- 有料個室：9床（うち2床はペット面会可能）
- 重症個室：1床
- 談話室
- 面談室
- 家族室
- 家族用キッチン



令和7年度利用実績
【令和8年2月～3月】

●入院延べ患者数：477人

④子ども向け体験イベントの開催

【小学生向け】キッズ病院お仕事体験の開催（2回目）

8月3日

前年度と比べ募集人数を6組12人増

小学生向け体験イベント

キッズ病院お仕事体験2025「救命救急センター24時」を開催

●市内外から小学校4～6年生の子どもと保護者24組48人が参加

【主な体験内容】

- 手指消毒
- 栄養食
- 心肺蘇生、AED
- 聴診
- 気管挿管
- 超音波
- 血圧測定
- DMAT車



応募倍率3.5倍



New 病院救急車、ヘリポート、レントゲン

④子ども向け体験イベントの開催

【中学生向け】「中学生メディカルフェスタ」の開催(初開催)

3月21日

中学生向け体験イベント

「中学生メディカルフェスタ～未来の医療人へ～」を初開催

- 市内外から午前と午後に分かれて29人が参加
- 将来を見据え、職種ごとに体験内容を用意

【主な体験内容】

午前 ●松葉杖 ●三角巾固定

●血液型検査の方法 ●薬剤ミキシング

●CT装置、X線機器見学 ●病院食試食

午後 ●腹腔鏡・電気メス ●心肺蘇生・AED ●病院救急車見学

●止血法 ●重症用ベッド・ヘリポート見学



⑤重点プロジェクトの実施

プロジェクトチームにより、5つの項目を検討

No.	名称	リーダー	検討結果
1	バイプレーンアンギオ導入	葉診療部長	次年度も継続
2	医師事務作業補助者等の活用活性化	杉木副病院長	次年度も継続
3	職員手当の見直し	屋代診療部長	完了
4	職員通用口の見直しと面会のあり方の改革	稲村副病院長	次年度も継続
5	病院総務課の組織見直し	三田副病院長	完了

幹部がリーダーとなった組織横断的なプロジェクトで、
更なる改善に向けた検討を実施

令和 7 年度実績

令和7年度実績

はじめに

令和7年度は、引き続き

「新入院患者の確保」(R7年度目標:10,800人)

と

「D P C入院期間Ⅱを意識した在院日数管理」

を重視しました。

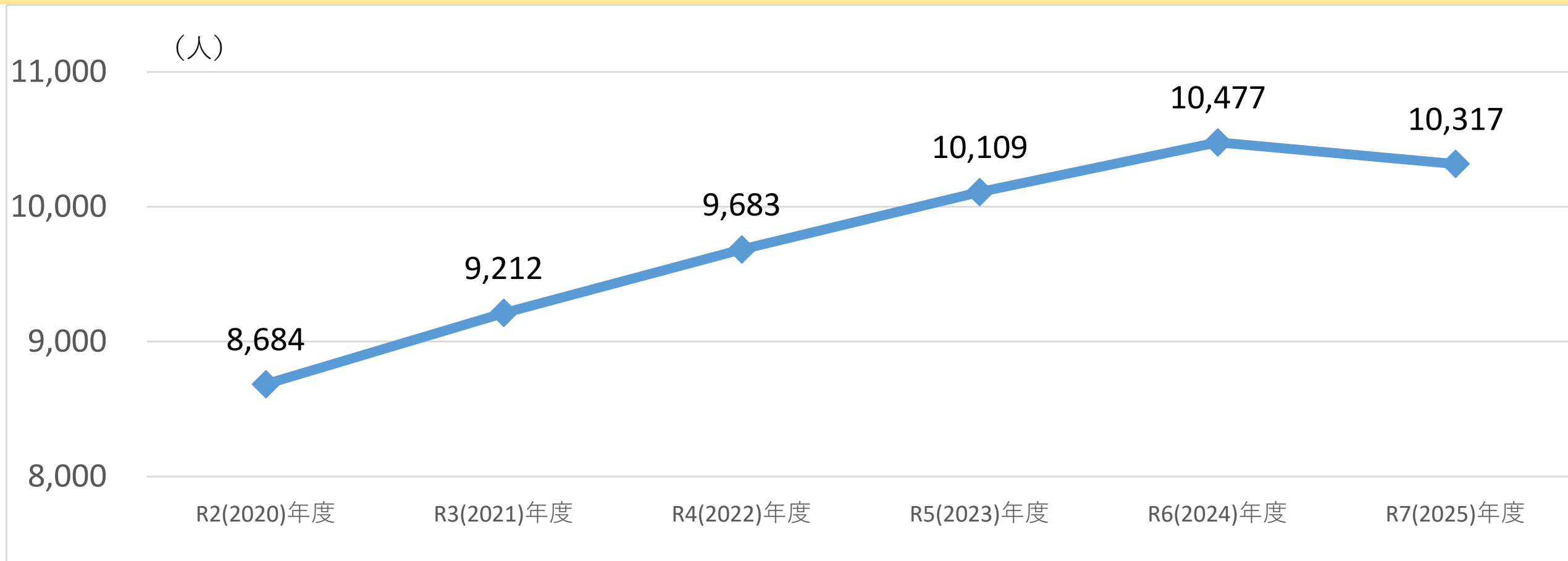
※「新入院患者数」の令和7年度目標は、令和6年度実績等を踏まえ、経営強化プランよりも高い目標を掲げ取り組んでいます。

主な臨床指標の前年度比較

	令和6年度	令和7年度	差
新入院患者数	10,477人	10,317人	▲160人 (▲1.5%)
1日平均入院延患者数	313.9人	313.9人	0人 (0%)
1日平均外来延患者数	783.2人	773.5人	▲9.7人 (▲1.2%)
病床利用率(許可病床ベース)	69.6%	69.7%	+0.1ポイント
手術件数	4,642件	4,418件	▲224件 (▲4.8%)
救急搬送件数	10,060件	9,776件	▲284件 (▲2.8%)
救急搬送入院患者数	3,456件	3,447件	▲9件 (▲0.3%)
紹介率	86.0%	89.0%	+3.0ポイント
逆紹介率	92.9%	101.1%	+8.2ポイント

令和7年度実績（入院）

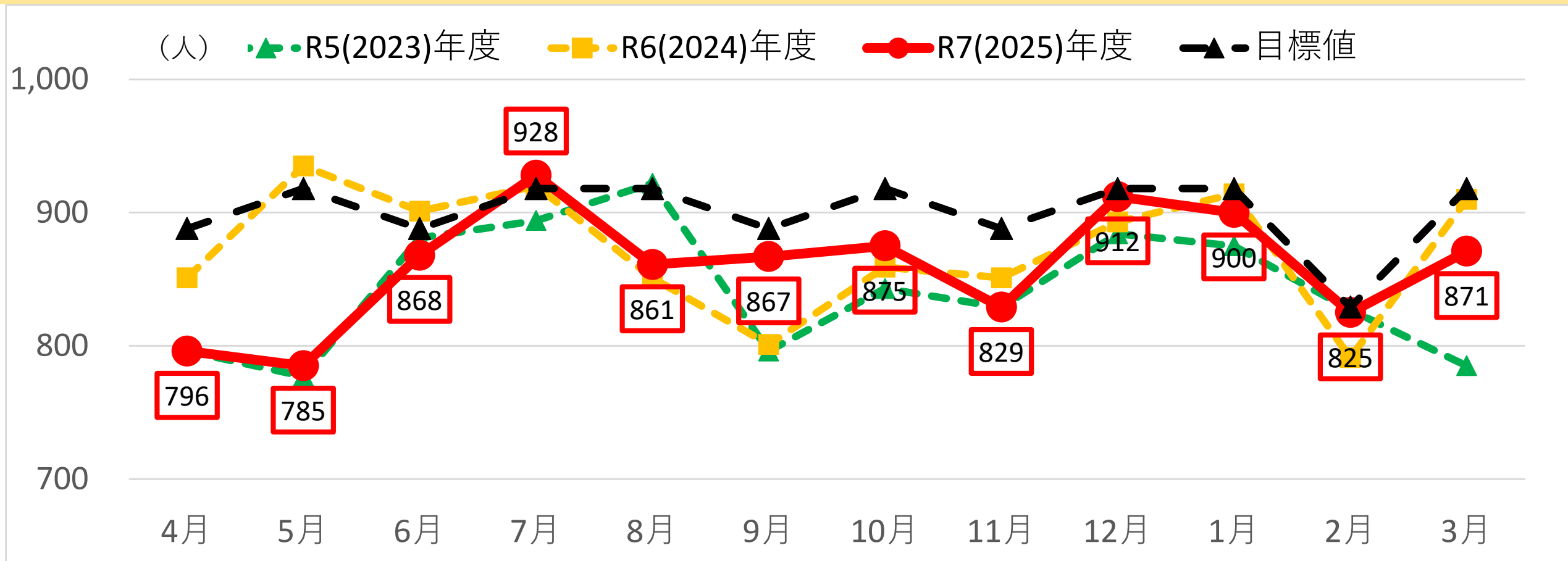
新入院患者数の推移（年間）



令和7年度は、令和6年度よりも新入院患者数がやや減少した。

令和7年度実績（入院）

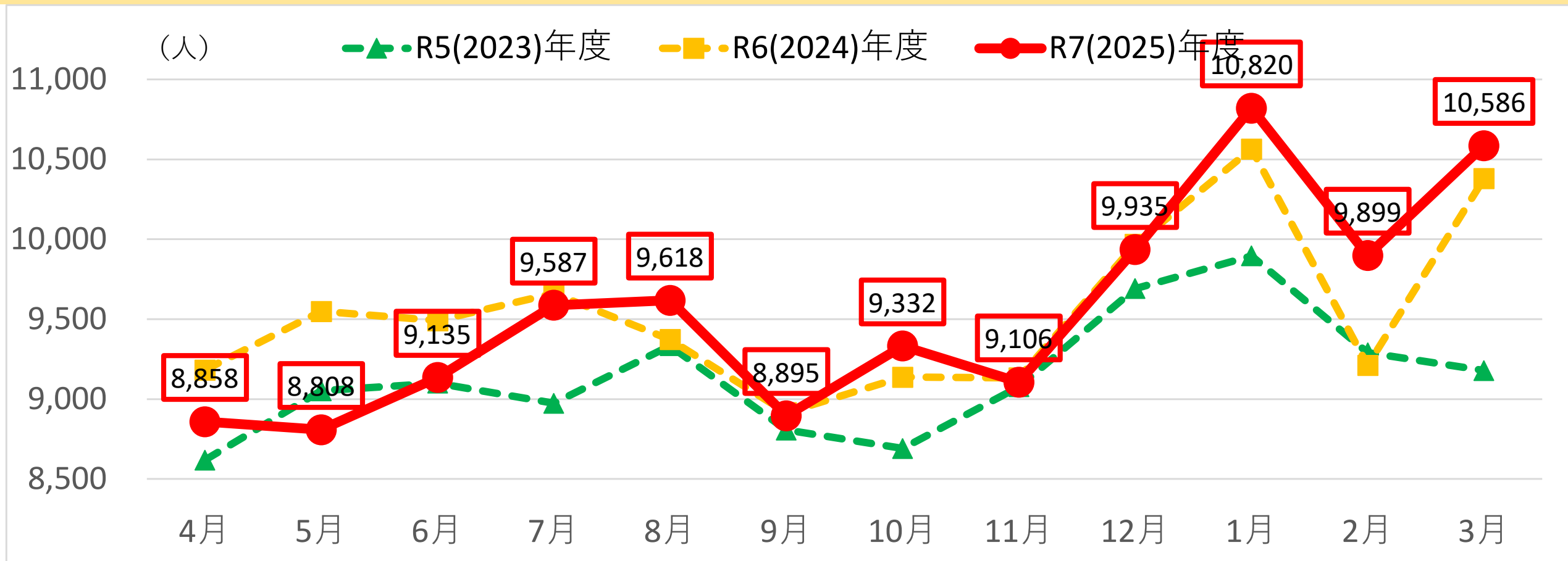
新入院患者数の推移（月別）



令和7年度は、令和6年度よりも新入院患者数がやや減少した。
目標を達成したのは7月のみ

令和7年度実績（入院）

入院延患者数の推移

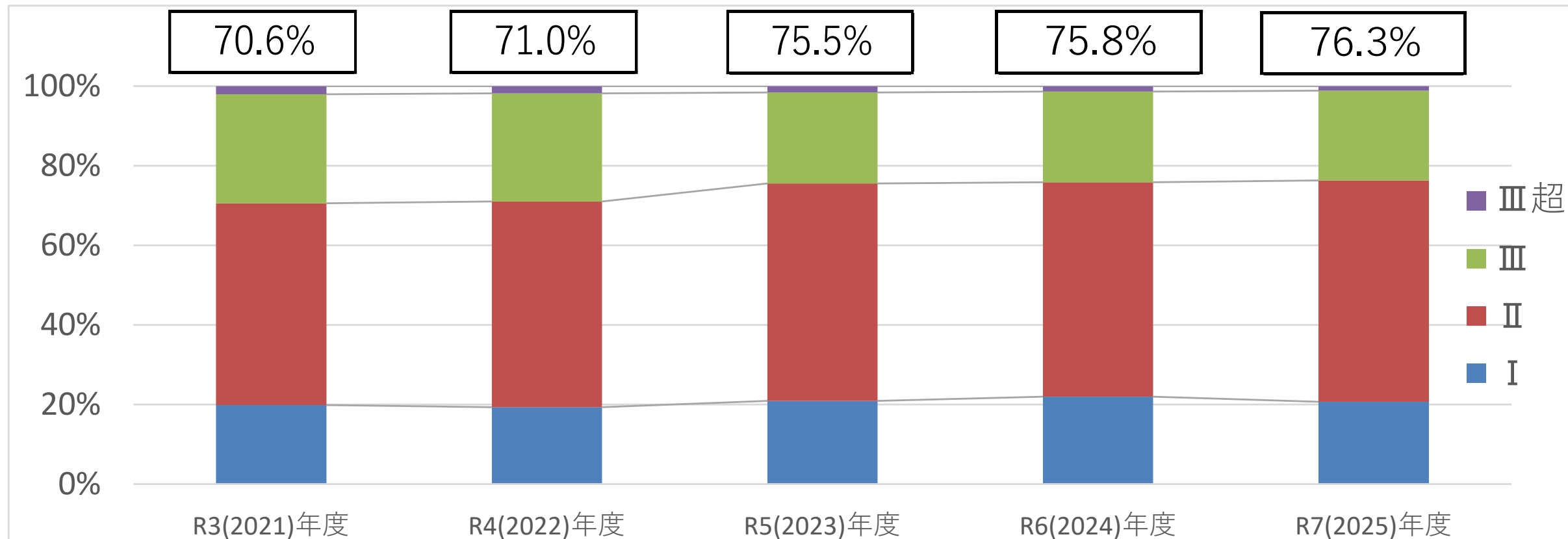


令和7年度の延べ患者数は、令和6年度より
13人増加

D P C入院期間Ⅱ以内での退院率

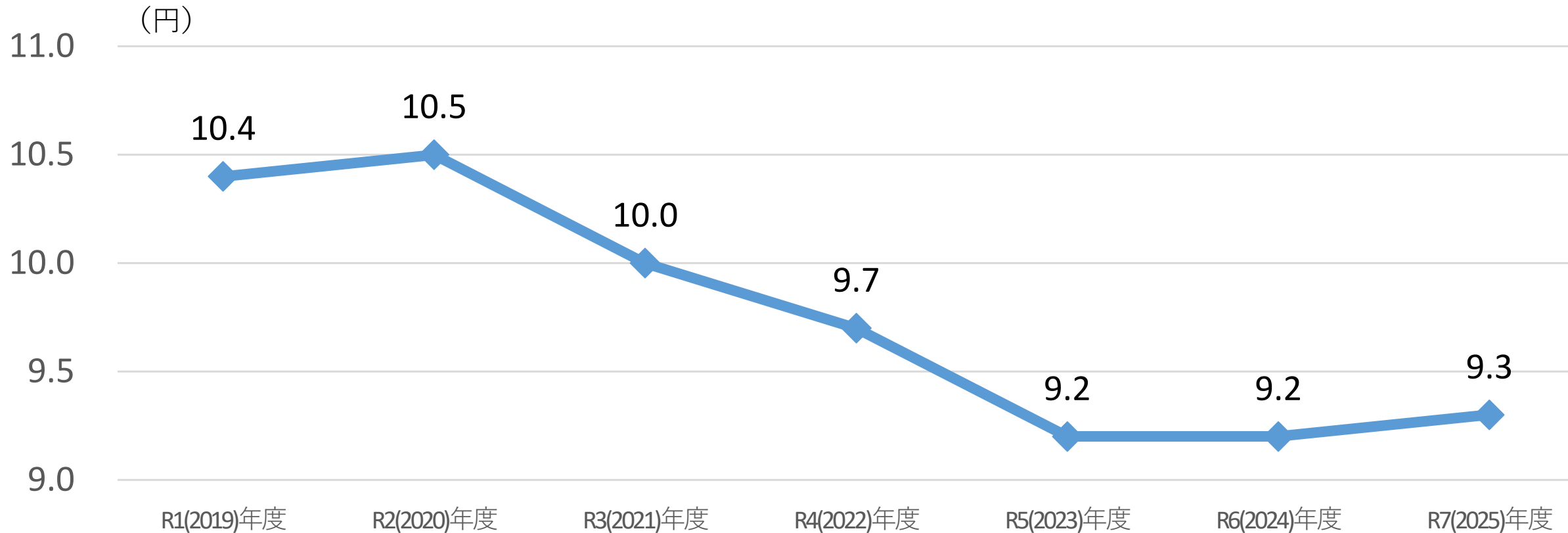
D P C制度は、入院診療報酬請求の制度で、病名や手術の有無等により、分類わけされ、在院日数に応じて1日当たりの点数が定められている。入院期間Ⅱまでであれば、その治療に対する平均的な収入が得られる。

- 入院期間Ⅱ以内での退院率が増加
- 特に期間Ⅱの割合が増加



令和7年度実績（入院）

平均在院日数の推移



平均在院日数は短縮傾向。
令和7年度はやや増加

令和7年度実績（入院）

診療科別新入院患者数比較

R6-R7患者増減数が大きい診療科

	令和6年度	令和7年度	差	備考
病院全体	10,477人	10,317人	▲160人 (▲1.5%)	
消化器内科	1,354人	1,573人	+219人 (+16.2%)	常勤医師1人増
循環器内科	472人	601人	+129人 (+27.3%)	
整形外科	1,139人	1,247人	+108人 (+9.5%)	
内科	2,100人	2,028人	▲72人 (▲3.4%)	
小児科	716人	619人	▲97人 (▲13.5%)	
眼科	235人	8人	▲227人 (▲96.6%)	白内障を外来移行

令和7年度実績（入院）

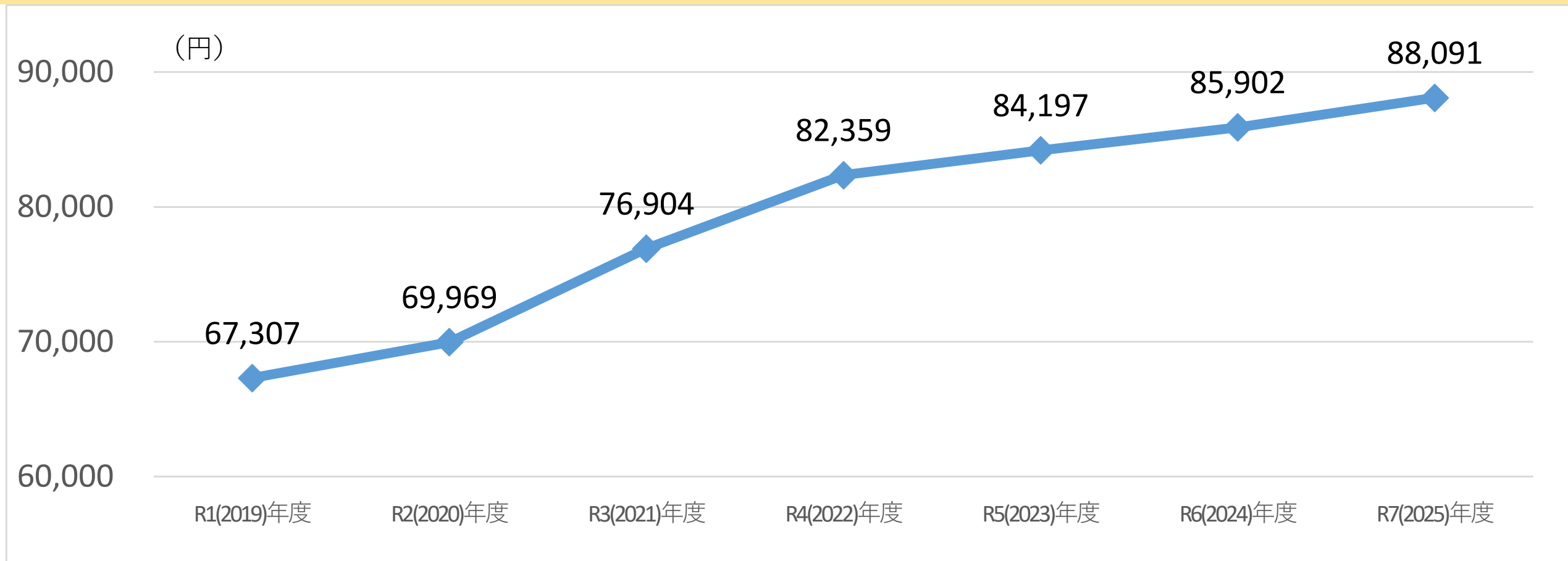
疾患別入院実患者数比較

R6-R7患者増減数が大きい疾患

	令和6年度	令和7年度	差
誤嚥性肺炎	307人	381人	+74人（+24.1%）
胆管（肝内外）結石、胆管炎	207人	266人	+59人（+28.5%）
狭心症、慢性虚血性心疾患	185人	240人	+55人（+29.7%）
急性腎不全	44人	72人	+28人（+63.6%）
急性膵炎、被包化壊死	24人	49人	+25人（+104.2%）
胎児及び胎児付属物の異常	120人	87人	▲33人（▲27.5%）
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	80人	32人	▲48人（▲60.0%）
その他の感染症	119人	61人	▲58人（▲48.7%）
肺炎等	281人	164人	▲117人（▲41.6%）
白内障、水晶体の疾患	216人	3人	▲213人（▲98.6%）

令和7年度実績（入院）

入院診療単価の推移

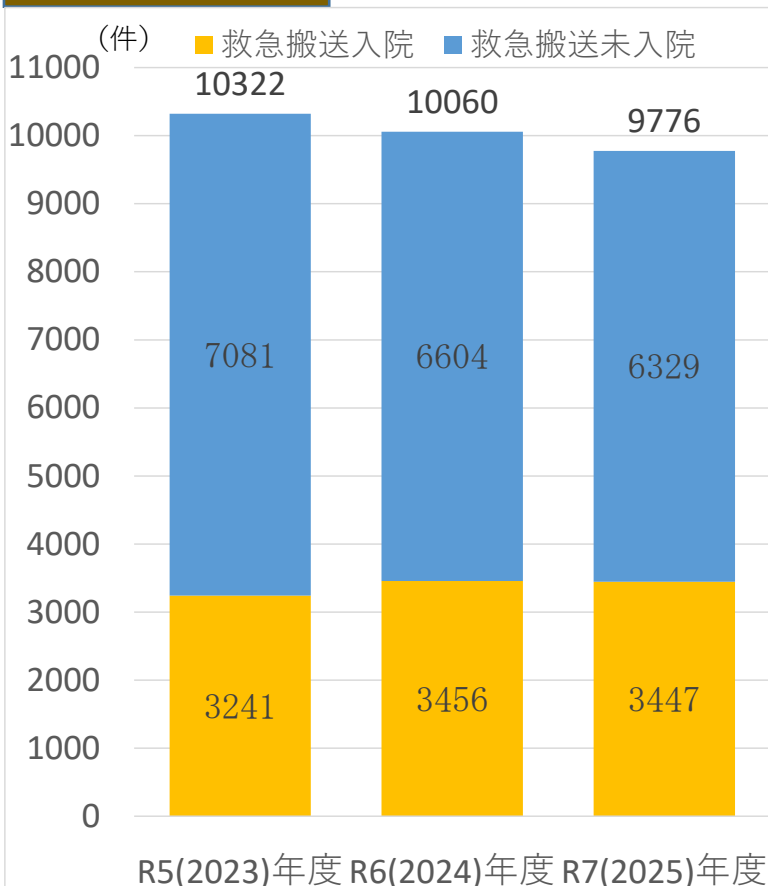


入院診療単価が増加。収入額は手術料の増加が大きい。

令和7年度実績（入院）

救急搬送受入の推移

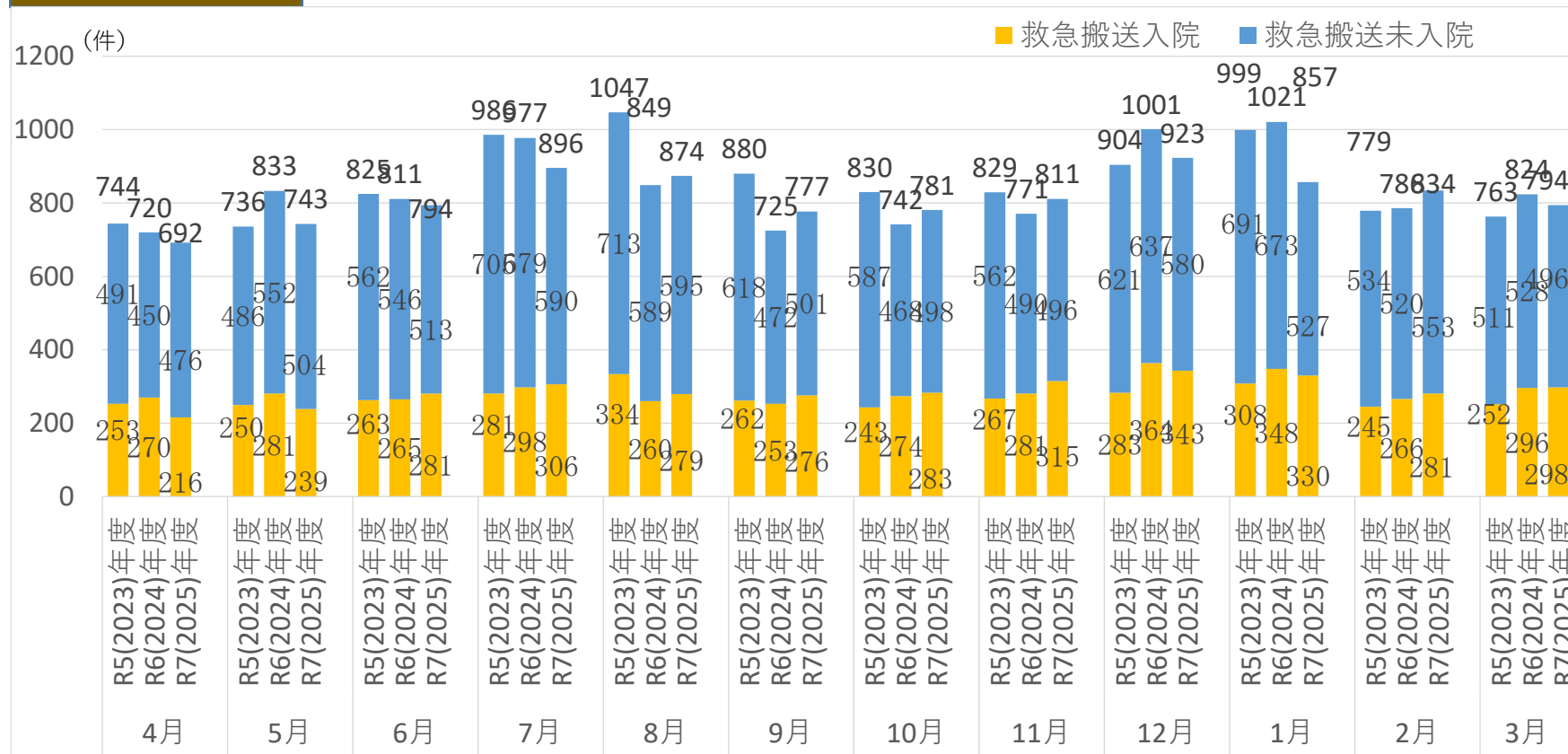
年間実績



R5(2023)年度 R6(2024)年度 R7(2025)年度

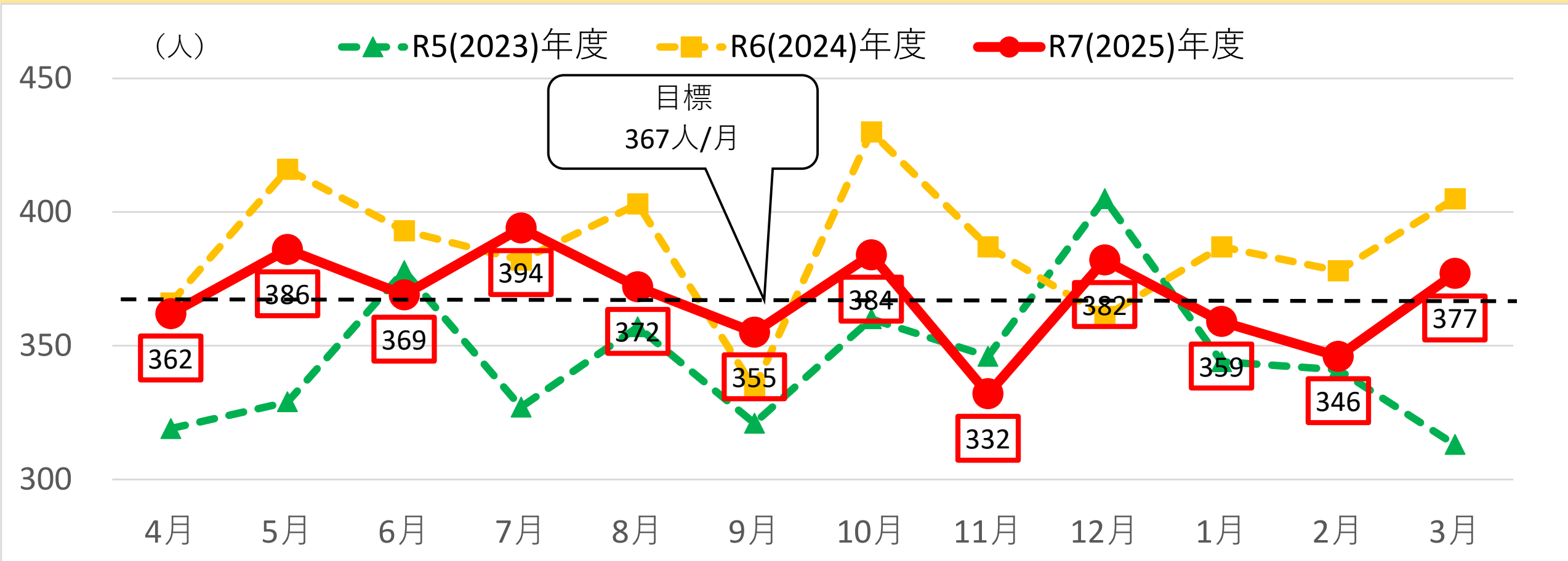
救急搬送入院率
34.4%(R6)⇒35.3%(R7)

月別実績



救急搬送件数・救急搬送入院が減少、
救急搬送入院率は増加

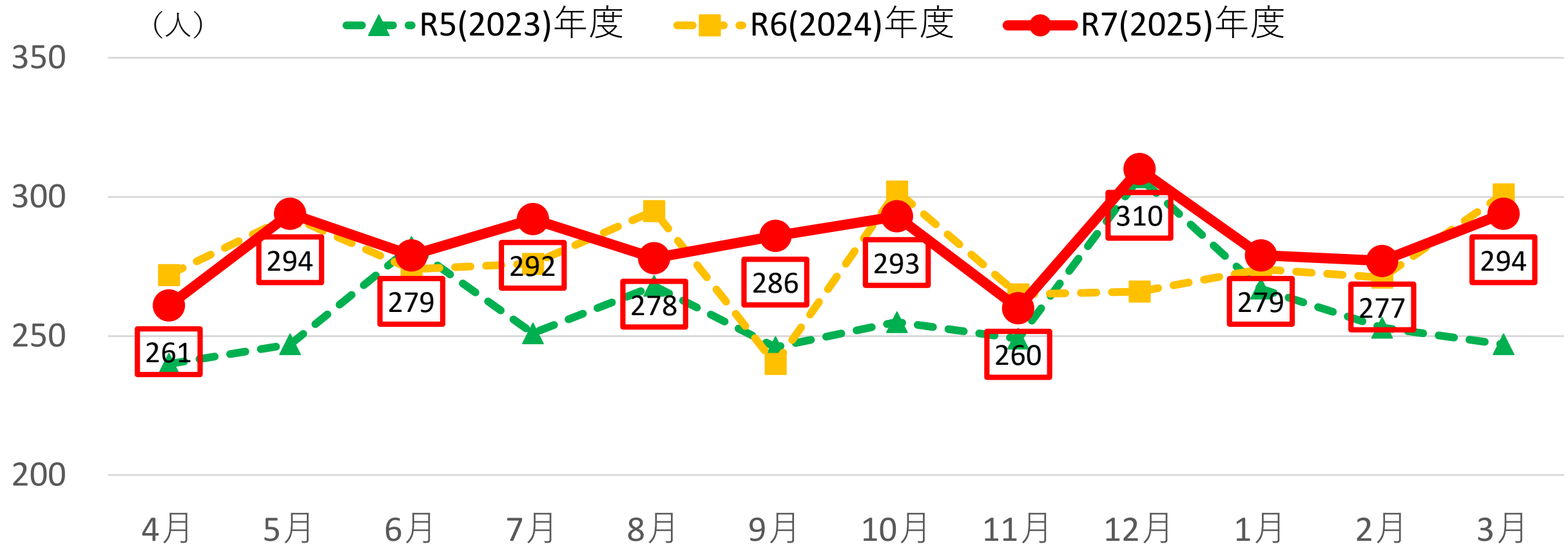
令和7年度実績（入院） 手術件数の推移



令和7年度は、令和6年度より224件減少
※医師不在や減少の診療科を中心に手術数が減少

令和7年度実績（入院）

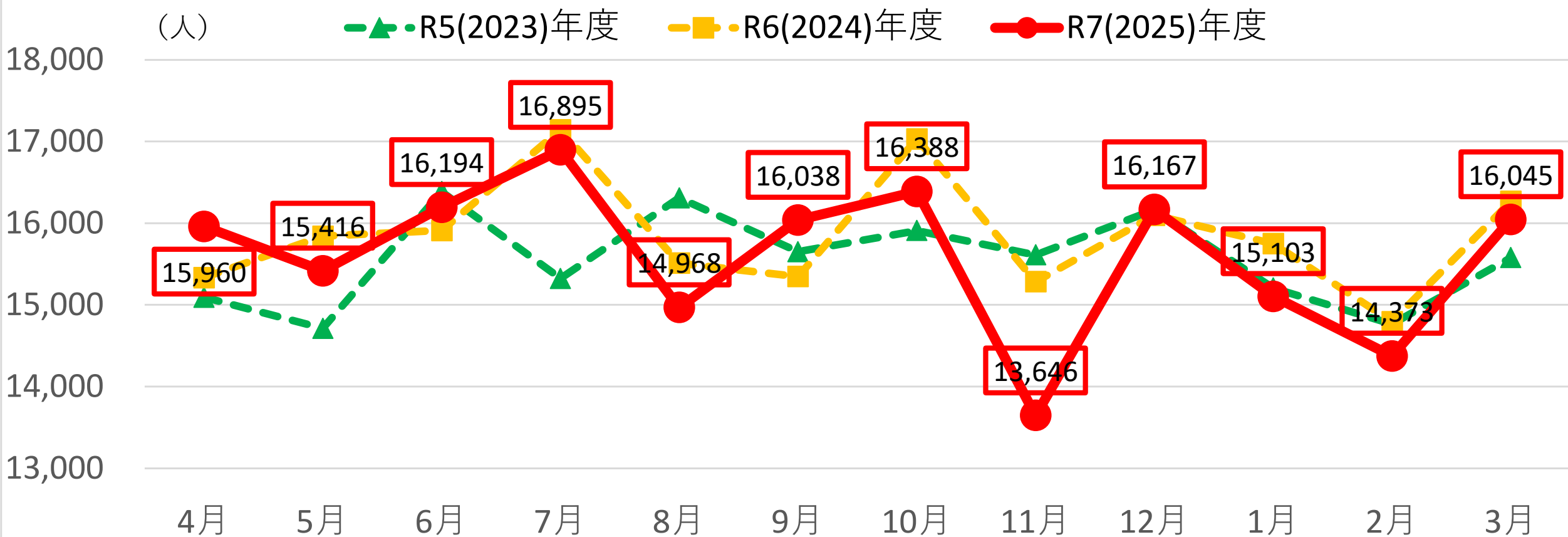
全身麻酔件数の推移



令和7年度は、令和6年度より74件増加

⇒手術件数は減少したが、全身麻酔件数は増加しており、当院で対応すべき手術にはしっかりと対応した。

令和7年度実績（外来） 外来延患者数の推移



外来延べ患者数は3,115人減少

令和7年度実績（外来）

診療科別外来延患者数比較

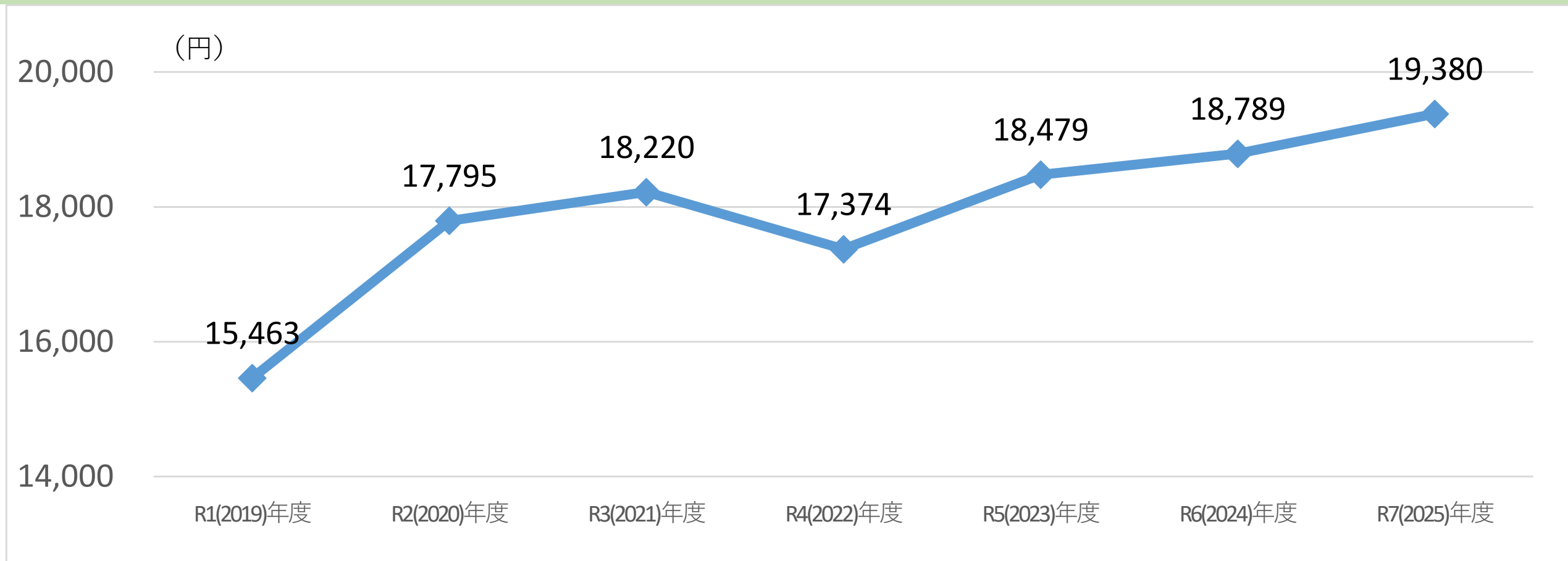
R6-R7患者増減数が大きい診療科

	令和6年度	令和7年度	差	備考
病院全体	190,308人	187,193人	▲3,115人（▲1.6%）	
消化器内科	19,403人	20,792人	+1,389人（+7.2%）	
循環器内科	9,624人	10,962人	+1,338人（+13.9%）	
放射線治療科	5,725人	6,680人	+955人（+16.7%）	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	5,086人	3,689人	▲1,397人（▲27.5%）	
眼科	7,245人	5,783人	▲1,462人（▲20.2%）	
皮膚科	15,610人	12,990人	▲2,620人（▲16.8%）	

常勤医師の増減の影響が大きい。

令和7年度実績（外来）

外来診療単価の推移

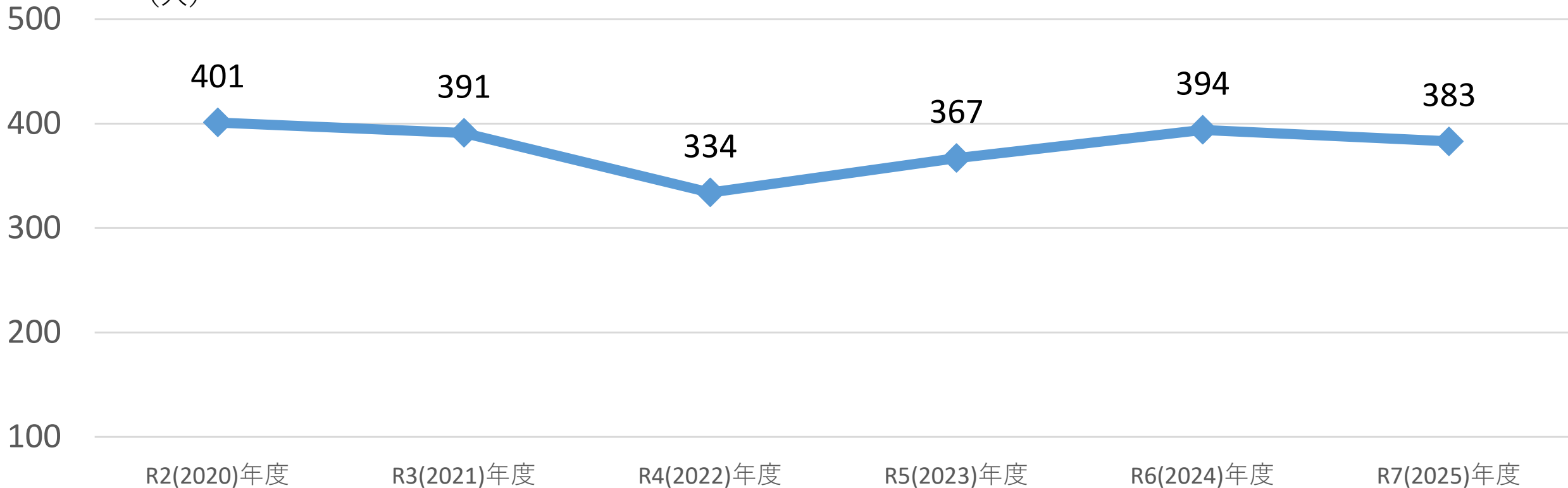


外来診療単価が増加、収入額は注射料の増加が大きい

令和7年度実績（政策的医療）

分娩件数(子どもの数)の推移

(人)



帝王切開の減少により分娩数が減少
前年度比▲11件（▲2.8%）

令和7年度実績（政策的医療）

居住地別出生数（母体数）の推移

市内居住者の割合

68.2%

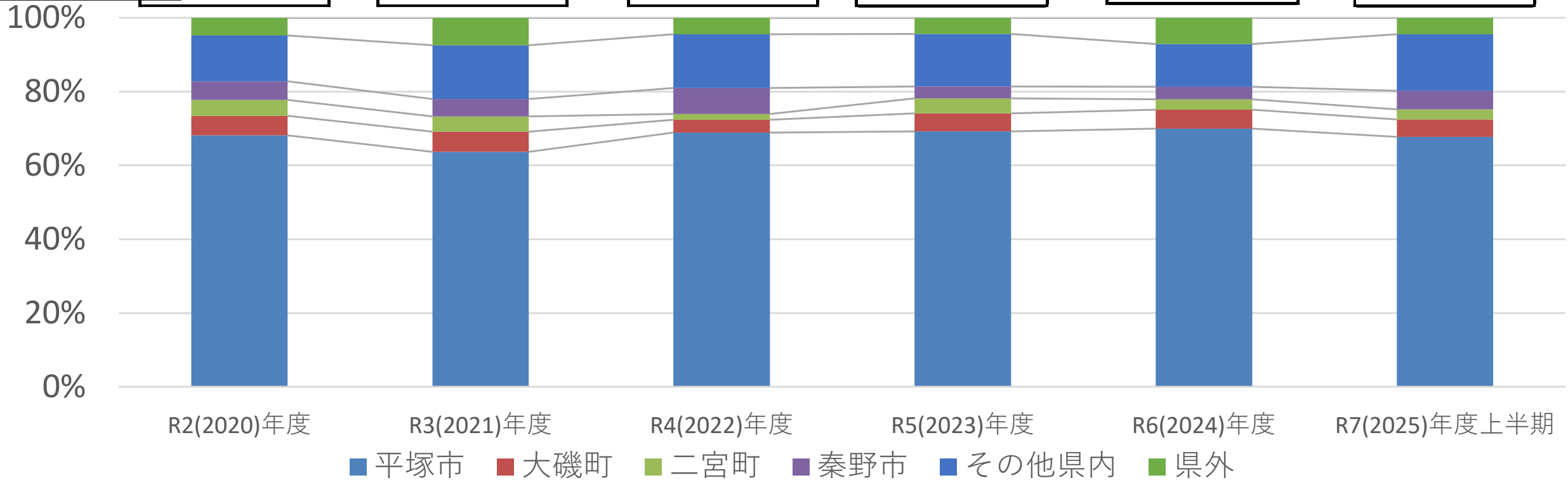
63.6%

68.9%

69.2%

70.0%

67.7%



市外居住者の割合が増加

令和7年度実績（経営）

主な経営指標の前年度比較

	令和6年度	令和7年度	差
医業収益	136億8,100万円	140億200万円	+ 3億2,100万円（+ 2.3%）
入院収益	98億4,100万円	100億9,300万円	+ 2億5,200万円（+ 2.6%）
外来収益	35億7,600万円	36億2,800万円	+ 5,200万円（+ 1.5%）
医業費用	161億9,800万円	168億7,500万円	+ 6億7,700万円（+ 4.2%）
給与費	90億3,500万円	94億9,100万円	+ 4億5,600万円（+ 5.0%）
材料費	34億5,100万円	35億2,200万円	+ 7,100万円（+ 2.1%）
修正医業収支比率	84.5%	83.0%	▲1.5ポイント
経常収支比率	97.6%	97.4%	▲0.2ポイント

入院、外来ともに収益は増加するものの、
費用の増加が大きく、医業収支比率、経常収支比率が悪化

まとめ

- 新入院患者がやや減少しました。
- 診療単価が増加し、収益が増加しましたが、費用が収益以上に増加しました。
- 紹介患者や救急受診患者を積極的に受け入れ、新入院患者の増加につなげます。

令和 8 年度の状況

はじめに

当院は
令和8年4月～

地域がん診療連携拠点病院に指定されました。

※これまでは神奈川県がん診療連携指定病院でした。

令和8年6月～

D P C 特定病院群に指定されました。

※これまではD P C標準病院群でした。

一定の基準を満たす高度な医療を提供する病院として指定されたことで、
地域の方々がより安心して受診できるようになります。

地域がん診療連携拠点病院とは

「地域がん診療連携拠点病院」は、がん医療の体制が整っており、実績を有している病院が厚生労働大臣から指定されます。

地域のがん診療の中心となり、地域全体に質の高いがん医療提供する役割を担っています。

具体的には次のような役割を果たします。

- 専門的ながん医療や緩和ケアの提供
 - 地域のがん診療を担う医療機関との連携
 - がん患者への相談支援や情報提供
- など

県内の地域がん診療連携拠点病院

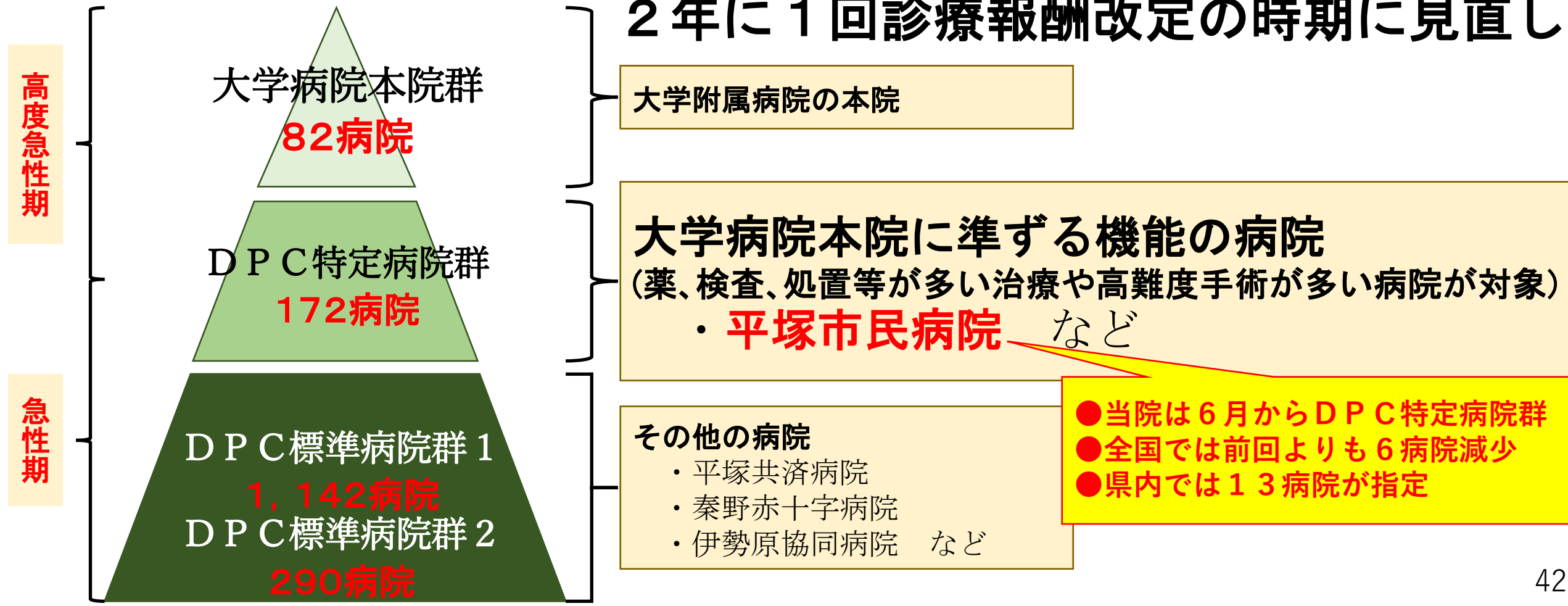
県内では25病院が指定されています。

- 横浜市立大学附属病院
- 聖マリアンナ医科大学病院
- 昭和医科大学藤が丘病院
- 昭和医科大学横浜市北部病院
- 横浜市立市民病院
- 藤沢市民病院
- 大和市立病院
- 国立病院機構横浜医療センター
- 湘南鎌倉総合病院
- 横浜労災病院
- 湘南藤沢徳洲会病院
- 北里大学病院
- 横浜市民病院
- 川崎市立川崎病院
- 平塚市民病院
- 横須賀共済病院
- 相模原協同病院
- 関東労災病院
- 東海大学医学部附属病院
- 横浜市民総合医療センター
- 日本医科大学武蔵小杉病院
- 川崎市立井田病院
- 小田原市立病院
- 済生会横浜市東部病院
- みなと赤十字病院
- 新百合ヶ丘総合病院

D P C 特定病院群とは

D P C 制度では医療機関は 4 つに分類される。

2 年に 1 回診療報酬改定の時期に見直し



D P C 特定病院群 県内の特定病院群

※（ ）内の順位は全国順位

	医療機関名	機能評価係数Ⅱ	救急補正係数	合計
1	徳洲会湘南鎌倉病院	0.1096	0.0396	0.1492（15位）
2	横浜市立大学附属市民総合医療センター	0.1082	0.0283	0.1365（36位）
3	横須賀共済病院	0.0946	0.0377	0.1323（46位）
4	横浜市立市民病院	0.1047	0.0264	0.1311（50位）
5	平塚市民病院（標準⇒特定）	0.0872	0.0387	0.1259（69位）
6	済生会横浜市東部病院	0.094	0.0318	0.1258（71位）
7	湘南藤沢徳洲会病院（標準⇒特定）	0.0734	0.052	0.1254（73位）
8	横浜南共済病院	0.0893	0.0272	0.1165（95位）
9	国立病院機構横浜医療センター（標準⇒特定）	0.0815	0.0295	0.111（115位）
10	川崎幸病院	0.0925	0.0169	0.1094（123位）
11	相模原協同病院（標準⇒特定）	0.0726	0.0353	0.1079（126位）
12	昭和医科大学藤が丘病院	0.0703	0.0245	0.0948（153位）
13	川崎市立川崎病院（標準⇒特定）	0.0701	0.0243	0.0944（155位）

- 県内の特定病院群は2病院増加（11病院⇒13病院）
- 藤沢市民病院、平塚共済病院、関東労災病院が特定病院群から標準病院群に

令和 8 年度診療報酬改定の影響

令和8年度診療報酬改定の影響 改定の主なポイント

- ①急性期・高度急性期入院料の見直し
- ②救急医療の充実
- ③処遇改善
(急性期拠点の集約化に向けた対応)

令和8年度診療報酬改定の影響 急性期の体制を評価

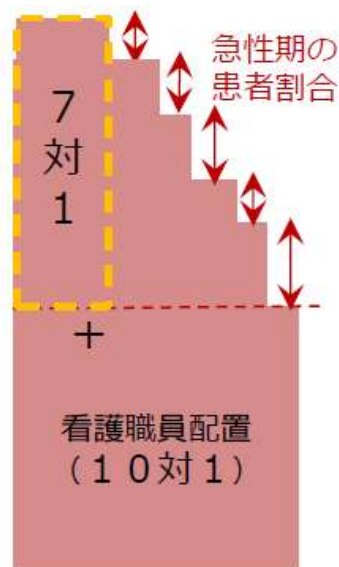
急性期対応体制や十分な実績

当院は急性期病院Aを取得

現行

- 病棟の急性期の患者割合に基づく評価

急性期一般入院料 1～6



改定後

- 病院の急性期機能に着目した評価を新設（急性期病院入院基本料）
- 看護・多職種協働の評価を新設

急性期病院A
一般入院料

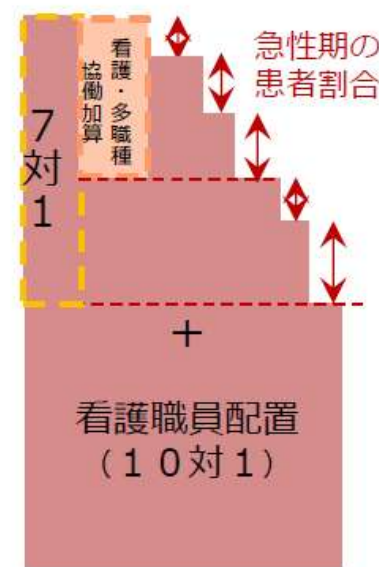


急性期病院B
一般入院料



実績等に応じ
医療機関が
選択可能

急性期一般入院料 1～6



- ※1 救急搬送2000件かつ全身麻酔手術1200件
※2 4つのうちいずれか（救急搬送1500件、救急搬送500件かつ全身麻酔手術500件、人口20万人未満地域の最大救急搬送病院（救急搬送1000件以上）、離島地域の最大救急搬送病院）

*看護・多職種協働加算は入院料4に加算。

救急医療の体制を評価

救急患者に対応する体制の充実

- 救急搬送患者に対する対応
- 夜間休日の救急患者に対する対応
- 救急患者に対する検査の実施
- 夜間休日の救急搬送患者に対する対応
- 夜間休日の救急患者に対する院内トリアージ実施

処遇改善（急性期拠点の集約化に向けた対応）

医師確保のための勤務環境・処遇の改善

- 消化器外科、循環器内科、心臓血管外科の医師に対する処遇の改善
- 消化器外科の長時間かつ高難度手術の実施に係る処遇改善

令和8年度診療報酬改定の影響

改定の影響

- ①急性期医療を提供する体制を整備し、実績を積み上げてきた結果、令和8年度診療報酬改定では、**4億円以上の増収**を見込んでいます。
- ②集約を意図した改定に一定程度対応できたことで、今後、医師の集約や医療機関の役割分担の明確化が進む中でも、引き続き急性期医療を担うことができる可能性があります。

令和8年度診療報酬改定の影響 今後の取組

●入院早期のリハビリテーション体制の強化

⇒早期回復・廃用症候群を軽減するため、土日祝日を含め入院3日目までのリハビリの強化が求められていることから、体制を構築する。

●内視鏡手術用支援機器（ロボット手術）の実績の積み上げ

⇒内視鏡手術用支援機器加算では、高額医療機器の集約を企図していることから、がん手術を中心としてロボット手術を年間200例以上実施し、引き続き先進医療を提供する体制を維持する。

●ICT機器を活用した業務効率化

⇒働き手不足の中で、生成AIなどのICT機器を活用し、質の高い急性期医療を持続的に提供する体制を構築する。